

2019. 10



329号 10/15

もえぎ

岡村 タマ子 さん書

MOEGI



医療法人社団萌気会

在宅療養支援診療所 (三日町)

在宅療養支援有床診療所 (浦佐)



10月27日(日) びしゃもん茶房
10時~12時

もくじ	
「人生の幸せは後半にあり」	2
第1回 魚沼地域 退院支援を考える会 in UKB	3
漫画 黒岩卓夫一代記	4
地域医療研究会全国大会 in 東京 2019 合同大会	5
Tsuji式 PNFテクニックベーシック&アドバンス講習会	6
インフルエンザ予防接種のお知らせ	7
うちの利用者さん&家族からの文	8

表紙写真:越後出雲崎 天領の里
日本海夕日公園(句を詠む芭蕉)

帯津良一先生と統合医療

11月3日 日本統合医療学会新潟県支部2019年度講演会



「人生の幸せは後半にあり」 ー ナイス・エイジングのすすめー

医療法人萌気会 理事長 黒岩卓夫

帯津先生は私より一級上で食道外科の専門医でした。明けても暮れても癌の手術の世界から、その限界を痛感し、治す、癒すの新しい医療へチャレンジすることを決意し、中国医学の導入から第一歩を踏み出しました。そしてホリスティック医学の新たな発展に人生をかけてきました。

私も全人的医療には学生の頃から関心があり、サークルを通して、ロシアの神経主義、中国や日本の漢方や経絡経穴の理論、人間を心身とも総合的に診ることにひかれました。

帯津先生のように医療の現場から実践としての統合医療というより、頭から入って思想的な面からアプローチしたと思います。医学方法論などと偉そうなことを言っていました。

ところで統合医療の中味はどうなっているのでしょうか。

統合医療は、西洋近代医療以外全てを包括したものの名称で、多様な医療、セラピーが存在します。以下列挙します。

中国医学(鍼灸、漢方)、アーユルヴェーダ(インド)、ユナニ(ギリシャ・アラビア)の三大伝統医学があり、そのうえホメオパシー、アロマセラピー、カイロ

プラクティック、オステオパシー(骨)、整体、食事療法、サプリメント、心理療法、芸術療法など多様です。さらに太極拳、気功、ヨガ、座禅もあります。

医療モデルと社会モデルという考えがあり、医療モデルは、魚沼の医療システムがそれにあたります。

社会モデルとは、生活者中心で、予防と健康増進が目的となり、地域性を認め、世代連携による多様な健康資源も活かし、QOL向上、健康格差是正、地域経済の活性化、コミュニティの創造に寄与することが期待されています。このモデルのなかにも、統合医療は活かされています。

帯津先生は場の理論を提起しています。

「癒しの場」、その場のパワーを高め、人の死をも生きる場に包含できるイメージです。場のパワーをピークに持って行き、その勢いである世に飛び込んで行く。とすれば死はこわくない。ここでのいう場の力とは、自然治癒力と言ってもいいのですが、特定の個人に働くだけではなく、その人の暮らしている場(家庭、職場、地域全体)を対象とした自然治癒力ということになります。具体的には健康づくりを生活に、質のよい予防や検診、医学の専門性を活用でき

るこうした地域が、レベルの高いパワーのある場(コミュニティ)と考えてもよいと思います。

私がびつくりしたのは、場が自由に広がり、あの世(あるいは浄土)をも包含し得るとまで提言していることです。萌気の場合、病院との連携の下、外来・在宅・在宅支援ベッドの3つの手段をもって看取りに全力を挙げていますが、自分たちが看取りでやられるとは何を意味するのか、ただ家で家族に看取られるだけではないはず！死や死後の悲しみも含めて、その場をどのようにつくってきたのか、改めて考えてみたいと思います。

11月3日の講演対談に期待して下さい。きっと面白いものになると思っています。

人生の幸せは
後半にあり
~ ナイス・エイジングのすすめ ~
by 帯津良一

日本統合医療学会新潟県支部 2019年度講演会

講演: 帯津良一先生
対談: 黒岩卓夫先生
ファシリテーター: 伊勢みずほ (コーディネーター)

11/3(日) 午前の部: 研究発表会 10:00開場 10:30開演
午後の部: 講演会 13:00開場 13:30開演

会場: 新潟市民プラザ (NEXT21) 参加費: 会員ご招待・非会員2000円(事前申込み)
新潟県新潟市中央区中央区通666 NEXT21 5F / 025-225-5500 3階400号(受付に申し込めば案内されます)

参加には事前申し込みが必要です。

第1回 魚沼地域 退院支援を考える会 in UKB

萌気園浦佐診療所 院長
黒岩 巖 志



先月11日、魚沼基幹病院で『第1回 魚沼地域 退院支援を考える会 in UKB (Uonuma Kikan Byoin)』が開催された。会の開催経緯、概要を報告する。

魚沼基幹病院などの高度急性期病院では、重症患者をスムーズに受け入れるためにベッドの回転を速める必要がある。そのため積極的治療が不要で病状は安定している患者であれば、医療処置が必要な患者、急速な症状の変化が予想されるがん終末期患者、体力的に自立生活も通院も困難な患者が自宅退院となることがあり、その場合様々な「不安」が患者・家族にのしかかる。「自宅ではどんな医療が受けられる?」「家族の急用時、預かってもらえるところがある?」「在宅医療・介護の費用は?」「在宅医療費、介護費が払えないときの支援制度はある?」「がんの苦痛緩和はできるのか?」「深夜の急変時、呼ぶのは救急車?在宅主治医?」「在宅看取りがイメージできない」「看取り時は病院に戻れるのか?」「在宅医療担当の医師はどんな人?その医師に任せて大丈夫?」「(がん患者で)ホスピス病棟への転院と自宅退院のどちらが良いか分からない」など。

このような不安を減らすためには、患者・家族が、在宅医療・介護、在宅緩和ケアを知ることが必要である。そのためにまずは患者・家族への説明を担う病院主治医・看護師が在宅医療・介護、在宅緩和ケアをイメージできなければいけない。



そこで私から、魚沼基幹病院の地域医療部長である須田^{たけし}剛士先生に「在宅医療・介護を知っていただく会」を、病院医師・看護師が参加しやすいように基幹病院内でやらせていただきたいと要望した。須田先生からは、「特にがん患者の退院支援、緩和ケアについて在宅との連携体制の整備を図りたい、さらに患者情報のスムーズな共有のための情報一元化も図りたい、まずは当院と在宅医療を担う先生方とでお互いの現状報告の場を設けたい」とのご返答を頂いた。

私から魚沼地域の在宅医療を担っている先生方など数名にお声掛けをさせていただいたところ、最終的に参加希望者が増え、南魚沼・魚沼両市の医師、看護師、保健師、ケアマネージャーなど計20名が基幹病院外から参加することになった。基幹病院からの参加者は医師、看護師、薬剤師、臨床心理士など計15名。

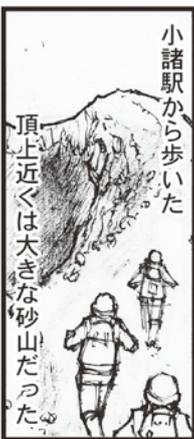
会の名称を上記に決め、第1回会議を35名で行った。まずは須田先生に当会開催の経緯をご説明いただき、その後自己紹介を兼ねて一人ずつ退院支援に関する思いを述べていただいた。ここでは基幹病院と在宅、基幹病院と他病院との連携における問題、課題が多数出された。その後下記4つのワーキンググループに分かれ話し合った。

- 1、病院スタッフや患者・家族に在宅医療を知っていただく(講演会開催やパンフレット作製)。
- 2、病院一在宅の相互情報提供の体制整備(退院時カンファレンス強化や事例検討会の開催)。
- 3、在宅医療担当医によるがん緩和ケア外来を基幹病院外来に開設する(がん緩和ケアにおける病院主治医と在宅主治医との連携)。
- 4、魚沼地域で共有できる共通患者情報用紙の作成(患者情報の一元化)。

今回は時間が無く十分な議論はできなかった。今後も継続して会を開催し、誰もが、どんな病気でも、その人が望む場所で、最期まで不安なく過ごせるような地域になるように、多機関・多職種で協力し合って一步一步話し合いを進めていければと思っている。



第三十一話
深志高校
トンボ祭



深志高校の学園祭は、1週間多様なイベントが展開される。研修発表だけでなく、演劇、運動会、ファイアーストームなど、小原先生の野武士姿などぴったりだった。2年の卓夫少年は学園祭が終わると受験体制に入ることになる。

地域医療研究会全国大会in東京2019 合同大会 NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第25回全国の集いin東京2019

2019年9月15日(日)～16日(月・祝) 会場：帝京平成大学 池袋キャンパス



第25回全国の集いin東京2019に参加しました。
今年も実践交流会にて、萌気園通所リハビリセンター浦佐・大谷靖子さんが優秀演題賞、萌気園有料老人ホームすみれ草・川部伊佐夫さんが前年に続きフォローアップ賞をいただきました。
萌気会職員の日頃の努力が積み重なって、実を結んだのだと、自分のことのように嬉しく、また誇らしく思います。
研究発表の成果と喜びの声を此処に紹介します。
事務局 田中 伊織

「デートの前みたいな気持ち」誰の言葉がわかりますか？

以前もえぎ新聞で報告した、レッツゴーおでかけリハビリ「弥彦温泉さくらの湯～美女旅温泉ストーリー～」を、理学療法士の笠原翼と発表して来ました。

聞き手を引き付ける為に、楽しくそして私の感動した体験が印象に残るよう、面白く発表をしてきました。そして優秀演題賞を頂く事ができました。受賞理由は「利用者の希望を受け取り、積極的に実践され、さらにその発表をユーモアを交え楽しく表現された事を評価します」と書かれていました。

親睦会では座長の吉永先生から「こういう発表の仕方は学会ではないから楽しかったよ」とお声掛けしていただきました。「感動しました」と大分県の理学療法士からも声を掛けられ、私の気持ちが伝わっていたことを実感しました。

音楽を使う事、笠原君とのやり取り、ウケを狙っても笑い無し、東京で黒岩先生の顔に泥を塗るのでは無いかと心配ばかりでした。でも思い切って発表し、受け入れられた事、お出掛けの実績、職員の頑張りが評価された事、大変うれしく笠原君と喜びました。そしてリハビリセンター利用者みなさん、たくさんのエピソードと写真を使わせて頂きありがとうございました。また、一緒に楽しみましょう。

この2日間、初めての体験ばかりでした。貴重な時間を過ごすことができた事に感謝します。

萌気園通所リハビリセンター浦佐 大谷 靖子



笠原 翼 黒岩理事長 大谷靖子



昨年の大阪大会に続いて研究発表の機会をいただき、認知症ケアの実践報告をしました。

今回の発表テーマは、「ある男性利用者に人生を振り返ってもらい、脳と心に刺激を与える認知症ケアは出来ないだろうか」というものです。研究のきっかけを作ってくれたのは一冊の本でした。その本を読み、目の前の一人の老人という見方ではなく、人生の先輩として一人の人間という見方が大事だと気付かせてくれました。またそこには尊敬の念がつつつと湧き上がってきました。一人の男の生き様を綴ったその本は、人生の物語を知ることの大切さを教えてくれました。

研究の途中でその方は逝去されて、製作した「人生の物語」を見ていただくことは出来ませんでしたので、中途半端な発表になってしまいました。しかしながら、フォローアップ賞(来年も懲りずに研究してこい賞)を受賞し、来年長崎で行われる全国大会での発表の機会をいただきました。

介護の仕事とは、人生の先輩をお世話させていただくという、尊敬の念こそがケアの基本だと学ぶ機会になったと思います

萌気園有料老人ホーム すみれ草 川部 伊佐夫

新潟特別開催 Tsuji式 PNFテクニックベーシック&アドバンス講習会

萌気園通所リハビリセンター浦佐 理学療法士 山田 春樹



認定証を受け取り
笑顔の山田春樹



8月4日(日)に大阪から日本PNFテクニック協会代表の辻亮先生を招いて研修会を開催しました。PNFとは感覚神経を刺激し、運動神経を活性化し本来持っている運動能力を引き出す手技になります。プロスポーツのウォーミングアップやリカバリー、高齢者リハビリの現場など幅広く使われております。

今回の講習会では先生が実際に現場で使用している技術を生で体験させて頂き、上肢・下肢のアプローチ方法を伝授して頂きました。

講習会後はリハビリセンターでも多くの利用者さんにPNFを用いてリハビリをすすめており、その成果を利用者さんから実感して頂いております。

その技術を自身のものにしようと萌気会からは理学療法士の阿部と小沢、作業療法士の野澤が参加し、講習終了後、認定証をいただきました。

主催者として、この地域で頼られる治療家が育ち、その技術が皆さんのもたらすような機会を作っていけるよう、努力してまいりたいと思います。



大学時代にPNFの授業を受けましたが、コツを掴めず難しい印象で、臨床に出てから実際に手技を使う機会がありませんでした。

Tsuji式PNFテクニックは、従来の手技に比べ、セラピストも施術を受ける方も分かりやすく構成されているため、ご家庭でも、リハビリでも活用できます。「筋トレ」ではなく「神(神経)トレ」であり、疲労が出る程の力は必要とせず、お互いに負担もなく行えました。講習会で、施術を練習した前後では、「体の動かしやすさ」や「手足の軽さ」など実感できました。

当施設ご利用の利用者様に対し施術を行い、しっかりと効果を実感して頂けるように頑張っていきたいと思っております。

萌気園通所リハビリセンター浦佐 理学療法士 小沢 萌

市報みなみ魚沼10月1日号 Minami Uonuma NEXT 次世代につなげる事業所からのメッセージシリーズに 萌気園大和通所介護「地蔵の湯」が掲載されました。

インタビューを受けた感想
最初は緊張しましたが、話しやすい雰囲気を作ってくれたので、徐々に緊張もほぐれ、素直に自分の思いを話すことができました。自分を見つめ直す良い機会になりました。少しでも多くの人が介護の仕事に興味をもってもらえたら嬉しいです。



小幡桃香(左)・櫻井未来(右)
地蔵の湯 職員



林 茂男
南魚沼市長

南魚沼市の介護事業所を紹介する企画で、「地蔵の湯」職員が、働き方や仕事への思いについて、林市長のインタビューに答えました。

インフルエンザ予防接種のお知らせ

1. 診療所 接種開始期日・時間・妊婦

診療所	接種開始	時間	月～金	土曜	日曜	祝日	妊婦
浦佐診療所	11月1日	午前 8:30～11:30	○	○	×	×	接種を受付けています
		午後 4:30～5:30	○	×	×	×	
二日町診療所	10月15日	午前 8:30～11:30	○	○	○	○	X
		午後 4:30～5:30	○	×	×	×	

- ・流行前の12月末までに接種されることをお勧めします
- ・実際の流行の状況により、時期を変更することがあります

2. 接種同意・同伴

年齢	保護者等署名	保護者等同伴
大人：20歳以上	不要	不要
未成年：19歳	必要	
こども：1歳から18歳		必要
0歳児：0歳	接種を受付けておりません	



3. 接種料金

年齢	区分	接種回数	1回料金	合計料金
65歳以上①	南魚沼市内在住 葉書あり ※保険証か免許証を 持参願います	1回	1,650円	1,650円
65歳以上②	一般（南魚沼市外など）		3,500円	3,500円
60歳以上障がい者	障害要件該当者		1,650円	1,650円
13歳～64歳	一般		3,500円	3,500円
3歳～12歳	小児 ①	2回	2,700円	5,400円
1歳、2歳	小児 ②		2,000円	4,000円

- ・小児は**1月末までに1回目の接種**を行ってください
- ・65歳以上で南魚沼市以外にお住まいの方は受付にて予診票をお渡します、お声がけください。

4. お知らせ事項

- ・“インフルエンザ予防接種”専用の予診票を診療所に用意していますので、必ずお使いください
あらかじめ記載した予診票を持参いただきますと受付がスムーズです
- ・予防接種の効果があらわれるまで2週間ほどかかります
- ・予防接種は、インフルエンザの重症化を防ぐことを目的としています
- ・予防接種は予約制ではありません



うちの利用者さん

小尾 アキ様

(萌気園有料老人ホームすみれ草利用者)



「長い間お仕事をされてきたと聞きましたが、どんな仕事でしたか？」

「大和病院で保健婦として働いてきたよ。」

「思い出話を聞かせてください。」

「新生児訪問検診の時は、絵が描かれたかわいいエプロンをして仕事をしたのをよく覚えているよ。」

「黒岩先生と一緒に仕事をされたそうですね。」

「先生と後山に往診に行った時は大変だった。大雪の中かんじきをしょって患者さんところに行ったなあ。」

「すみれ草の生活はいかがですか？」

「みんな良くしてくれるよ。でもお茶は熱くして出して欲しいな。」

いつも体温測定のお手伝いをしてくれて、有難うございます。

〈すみれ草 職員一同〉



〈地蔵の湯利用者〉

行方ハツイ様ご家族

息子の私が退職して親の世話を始めてから、この気持ちや努力は続いています。ただ、父が亡くなり話し相手がだんだん少なくなると、地蔵の湯の皆様との語らいが、楽しいようですので、まだまだ元気で通えると思います。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

その母は、父と一緒に家のため子どものためと頑張っていた頃と同様、半身不随になつてからも、父の世話になりながらも自分でできることはできるだけするように、また、できるように努力していました。

ふみ

私の母は、世話をしていた父が怪我で入院したため、地蔵の湯を利用させていただくことになりました。地蔵の湯の利用は、母の希望によるもので、それからは何年通っているのか、息子の私でもちよつと考えなければならぬほど通わせていただいています。

スタッフ
募集

あなたの経験・技術・資格をいかしませんか？

介護職員 大募集 (正職員・パート勤務可)

まずはお電話下さい。025-781-6155 担当：荒井

(萌気会ホームページ職員採用情報サイトにも掲載中)

編集後記

☆今年の夏はとても暑い日が続いていましたが、秋になると気温が下がり温度差が10度もある時が何日もあり、風邪を引かれたりと体調を崩される方が多く見られました。温度差の影響なのか例年よりインフルエンザが早くに見られていました。例年より早めに予防接種をし、インフルエンザにならない様に体調等の管理を心掛けましょう。

〈大平〉

医療法人社団 萌気会 理事長 黒岩卓夫 〒949-6772 新潟県南魚沼市二日町205-6
萌気会のホームページ <http://www.moegien.jp> 法人事務局 TEL. 025-781-6155